

## ガイダンス

### 1. 実験の予定

09月27日(金) 第1回目 ガイダンス・班分け

10月04日(金) 第2回目 音環境の測定(その1・実験内容の説明と機器の準備)

10月11日(金) 第3回目 音環境の測定(その2・測定の実施)

10月18日(金) 第4回目 音環境の測定(その3・補足説明)

→レポート締め切り:10月21日(月)

10月25日(金) 第5回目 光環境の測定(その1・実験内容の説明と機器の準備)

11月01日(金) 第6回目 光環境の測定(その2・測定の実施)

11月08日(金) 白亜祭準備のため休講

11月15日(金) 第7回目 光環境の測定(その3・補足説明)

→レポート締め切り:11月18日(月)

11月22日(金) 第8回目 熱環境の測定(その1・実験内容の説明と機器の準備)

11月29日(金) 第9回目 熱環境の測定(その2・測定の実施)

12月06日(金) 第10回目 熱環境の測定(その3・補足説明)

→レポート締め切り:12月09日(月)

12月13日(金) 第11回目 空気環境の測定(その1・実験内容の説明と機器の準備)

12月20日(金) 第12回目 空気環境の測定(その2・測定の実施)

01月10日(金) 第13回目 空気環境の測定(その3・補足説明)

→レポート締め切り:01月14日(火)(13日(月)が祝日のため)

01月17日(金) 大学入学共通テスト準備のため講義なし

01月24日(金) 第14回目 ビル衛生管理法に基づく環境の測定(その1・実験内容の説明と機器の準備)

01月31日(金) 第15回目 ビル衛生管理法に基づく環境の測定(その2・測定の実施)

→レポート締め切り:02月13日(木)(テスト期間を避けるため)

#### 実際に測定を行う内容

音環境:道路交通騒音の測定,室内騒音の測定など

光環境:照度の測定,輝度の測定など

熱環境:温湿度の測定,壁の表面温度の測定,グローブ温度の測定など

空気環境:風速の測定,空気汚染の測定など

原則として3週間で一つの項目の実験を行います。

一つの項目ごとに実験レポートを作成してください。レポートの締め切りは、原則として、(その3・補足説明)を行った翌週の月曜日までとします。例えば、「音環境の測定」の場合は、10月21日(月)が締め切りです。その後、レポートを採点(4段階程度)し、次の項目の(その1・説明)の回のはじめに返却し、講評する予定です。採点には時間がかかるため、月曜日を締め切りにします。

上記の予定は、皆さんと相談したり、検討したりした結果、変更になることも考えられますので、欠席した際などには、十分注意してください。変更がある場合は、できるだけ速やかに掲示するか、Canvas LMS 上で告知するようにします。

実験に使用する部屋は、原則として設備システム実験室(環境共生学部棟西棟(旧棟)の実験実習棟2階)です。なお、(その3・補足説明)は、居住情報実習室(環境共生学部棟西棟(旧棟)の実験実習棟2階)で行う予定です。

実験は、いくつかの班に分かれて行います。無断での欠席は、他の受講生や班員に迷惑をかけることになるので、やむを得ず欠席する場合は、他の受講生や班員もしくは担当者などに事前に連絡してください。

また、他の受講生や班員に迷惑がかかることから、途中で履修を放棄しないでください。

## 2. 教科書

- 1) 今村仁美・田中美都著「図説 やさしい建築環境」(学芸出版社, 2,800 円+税, 「建築環境工学 I・II」(2年生配当)の教科書)
- 2) 日本建築学会編「建築環境工学実験用教材 第2版」(日本建築学会, 1,900 円+税)

新しい項目に入る前には, 上記の教科書や2年生の時に配布した配付資料を見直し, 復習をしてから臨んでください。これまで, 授業中の説明だけでは充分理解できないとの声がありました。しかし, この実験は, 2年生配当の「建築環境工学 I・II」の内容を理解していることを前提として進めています。「建築環境工学 I・II」の内容が理解できていない人は, 今一度勉強し直してください。なお, 「建築環境工学 I・II」を履修していない人は, 担当者まで相談してください。

## 3. 参考図書

- 1) 田中俊六監修『最新 建築設備工学[改訂版]』(井上書院, 3,200 円+税, 「環境設備学」(2年生・後期配当, 担当: 田中教授)と「環境設備システム学」(3年生・前期配当, 担当: 田中教授)の教科書)

また, その他の参考文献は, 毎回配布する予定の資料の最後に載せるなどして, 適宜紹介します。レポート作成の際などに参考にしてください。

## 4. 成績の評価

- 1) シラバスには, 「・各項目の実験・演習に対して提出された実験・演習レポート／・実験・演習への参加態度／上記を総合的に評価する。」と書かれていますが, 実際には出席点とレポートを総合して, 評価する予定です。実験ですので, 当然ですが, 定期試験はありません。
- 2) 出席点が約5~6割, レポートが約4~5割として評価します。
- 3) レポートの提出が一つでも不足している場合は, 原則として 60 点未満の評価とします。

## 5. 配付資料

講義で配布する資料などは, できるだけ毎回下記のホームページ, もしくは Canvas LMS 上にアップロードしておくので, 必要な人や欠席した人は, 各自でダウンロードしてください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jikkenn.html/kyojikkenn.html>

## 6. 担当者(レポートの提出先)

質問・レポートの提出先は、以下の担当者まで。

教授・辻原万規彦(主担当)

部屋:環境共生学部西棟(旧棟)4階南西角(11-418号室)

電話:096-321-6706,もしくは096-383-2929(内線492)

e-mail:m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

教授・田中昭雄(副担当)

部屋:環境共生学部西棟(旧棟)3階南西角(11-310号室)

電話:096-321-6703,もしくは096-383-2929(内線475)

e-mail:a-tanaka@pu-kumamoto.ac.jp

研究室助手・岡本孝美

部屋:環境共生学部西棟(旧棟)3階南西角・田中研究室(11-310号室)／4階中央・岡本研究室  
助手室(11-415号室)

電話:096-383-2929(内線482(岡本研究室助手室,11-415号室)／内線475(田中研,  
11-310号室))

e-mail:okamoto@pu-kumamoto.ac.jp

## 7. その他の留意事項

- 01) 主担当の教員(辻原)に対して生理的嫌悪感や不快感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。主担当の教員(辻原)自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するように努めます。しかし、主担当の教員(辻原)自身による改善が難しくなかつ正当だと考えられる理由を書面で提出した場合には、成績評価の際に、出席点について考慮したいと思います。ただし、その場合でも、レポートは必ず提出してください。
- 02) 講義時間以外で、担当者に質問をするための担当者の研究室などに来室する際には、e-mailや電話、Canvas LMSで事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。その他に、e-mailやCanvas LMSを使う質問も可能です。主担当の教員(辻原)の今年度のオフィスアワーは火曜日3時限(12:50~14:20)の予定です(教務入試課教務班の掲示板などで再度確認してください)。しかし、この時間帯でも、緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特にスマートフォンなどからe-mailを送る際には、送り主の

氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていない e-mail には返答しないこともあります。ただし、Canvas LMS を使う場合は、その限りではありません。

- 03) 講義(実験)は、授業開始のチャイムがなったと同時に開始する予定です。チャイムが鳴る前に着席し、遅刻をしないようにしてください。遅刻は周囲の学生にも迷惑をかけますし、担当教員(辻原)の講義への集中も妨げます。一方、その日の進み具合によっては、講義(実験)の時間を延長することがあります。受講生による実験の準備に時間がかかることもあります。講義(実験)終了のチャイムが鳴った後、やむを得ない事情がある場合は、退室しても結構です。ただし、講義(実験)時間の延長がある点に充分注意し、その後の予定を組んでください。
- 04) 主担当の教員(辻原)としては、講義(実験)などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけています。しかし、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくないと思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るよう努力します。
- 05) 主担当の教員(辻原)としては、できるだけ中立の立場から素直に皆さんに話をするように心がけています。しかし、おかしいと感じた際や気に障るような発言で不快を感じた際には、遠慮なく指摘してください。直接指摘することが難しい場合は、岡本助手に e-mail を送ったり、直接話したりして指摘してください。性格については、一朝一夕ではなかなか直らないかもしれませんが、できるかぎり、改善するよう努力します。